

本資料は、 Bristol Myers Squibb が 2021 年 9 月 17 日に発表したプレスリリースの和文抄訳であり、内容につきましては英語原文が優先されます。本プレスリリースに記載されている医薬品情報(本邦未承認情報を含む)は、 Bristol Myers Squibb に関連する最新情報をステークホルダーの皆様にお知らせするものであり、医薬品のプロモーションや宣伝・広告を目的とするものではありません。

Bristol Myers Squibb、 **CPS が 5 以上の PD-L1 陽性、 HER-2 陰性の進行または転移性胃がん、 胃食道接合部がんおよび食道腺がん患者の治療薬として、 オプジーボと化学療法の併用療法に対する CHMP の肯定的な見解を受ける**

- この承認推奨は、 オプジーボと化学療法の併用療法が化学療法と比較して良好な全生存期間を示したピボタルな第Ⅲ相 **CheckMate -649** 試験の肯定的な結果に基づいています。

(ニュージャージー州プリンストン、 2021 年 9 月 17 日) – Bristol Myers Squibb (NYSE : BMY/本社 : 米国ニューヨーク/CEO : ジョバンニ・カフォリオ) は、本日、欧州医薬品庁 (EMA) の医薬品委員会 (CHMP) が、 **combined positive score (CPS) が 5 以上の PD-L1 陽性、 HER-2 陰性の進行または転移性胃がん (GC)、 胃食道接合部 (GEJ) がんまたは食道腺がん (EAC) の成人患者のファーストライン治療薬として、 オプジーボ (一般名 : ニボルマブ) とフルオロピリミジン系およびプラチナ系薬剤を含む化学療法の併用療法の承認を推奨したことを発表しました。 今後、 CHMP の推奨は、 欧州連合 (EU) で医薬品を承認する権限を持つ欧州委員会 (EC) によって審査されます。**

Bristol Myers Squibb の消化器がん領域担当開発責任者である Ian M. Waxman (M.D.) は、次のように述べています。「胃がん、胃食道接合部がんおよび食道腺がんは、世界で最も致死率の高いがんであり、HER-2 陰性の患者さんに対しては、何年も治療法に大きな進展がありませんでした。**CheckMate -649** 試験の結果に基づき、オプジーボと化学療法の併用療法は、化学療法単独と比較して、同患者集団において良好な全生存期間の延長を示した最初のレジメンです。この新しい治療薬をお届けして重大なアンメットニーズに対処できるよう、欧州委員会の決定に期待しています。」

今回の肯定的な見解は、ファーストライン治療としてオプジーボとロイコボリン、5-フルオロウラシルおよびオキサリプラチン (FOLFOX) またはカペシタビンおよびオキサリプラチン (CapeOX) の化学療法の併用療法を化学療法単独と比較評価したピボタルな第Ⅲ相 **CheckMate -649** 試験の結果に基づいています。本試験の結果では、**CPS が 5 以上の PD-L1 陽性の切除不能な進行または転移性 GC、 GEJ がんまたは EAC 患者において、統計学的に有意かつ臨床的に意義のある全生存期間 (OS) および無増悪生存期間 (PFS) の改善が示されました (試験の主要評価項目)。** オプジーボと化学療法の併用療法で示された統計学的に有意な OS のベネフィットは、**CPS が 1 以上の PD-L1 陽性患者および全無作為化患者集団においても認められました。** 本試験におけるオプジーボと化学療法の併用療法の安全性プロファイルは、各薬剤のこれまでに報告されている安全性プロファイルと一貫していました。

CheckMate -649 試験の拡大解析の結果は、2021 年米国臨床腫瘍学会 (ASCO) 年次総会で発表されました。

米国において、オプジーボとフルオロピリミジン系およびプラチナ系薬剤を含む化学療法の併用療法は、PD-L1 発現率にかかわらず、進行または転移性 GC、GEJ がんおよび EAC 患者の治療薬として承認されています。

Bristol Myers Squibb は、**CheckMate -649** 臨床試験にご参加いただいた患者さんおよび治験担当医師の皆様にご感謝の意を表明します。

CheckMate -649 試験について

CheckMate -649 試験は、未治療の HER-2 陽性以外の進行または転移性 GC、GEJ がんおよび EAC の患者を対象に、オプジーボと化学療法の併用療法またはオプジーボとヤーボイの併用療法を、化学療法単独と比較評価した多施設共同無作為化非盲検第Ⅲ相臨床試験です。オプジーボと化学療法の併用療法群では、オプジーボ 360 mg とカペシタビンおよびオキサリプラチン (CapeOX) を 3 週間間隔で、またはオプジーボ 240 mg と 5-フルオロウラシル、ロイコボリンおよびオキサリプラチン (FOLFOX) を 2 週間間隔で投与しました。オプジーボとヤーボイの併用療法群では、オプジーボ 1 mg/kg およびヤーボイ 3 mg/kg を 3 週間間隔で計 4 回投与し、その後、オプジーボ 240 mg を 2 週間

間隔で投与しました。化学療法群では、FOLFOXを2週間間隔で、またはCapeOXを3週間間隔で投与しました。投与は、病勢進行もしくは忍容できない毒性が認められるまで、または患者が同意を撤回するまで、2年間継続されました。本試験の主要評価項目は、化学療法単独群と比較した、オブジーボと化学療法の併用療法群のCPSが5以上のPD-L1陽性患者におけるOSおよび盲検下独立中央評価委員会（BICR）の評価による無増悪生存期間（PFS）です。主な副次評価項目は、化学療法単独群と比較した、オブジーボと化学療法の併用療法群のCPSが1以上の患者および全無作為化患者におけるOS、並びにオブジーボとヤーボイの併用療法群におけるOSおよび症状悪化までの期間（TTSD）です。

胃がんについて

胃がんは世界で5番目に多く、がんによる死因で4番目に多いがんで、2020年には1,000,000人以上が新たに診断され、約770,000人が亡くなっています。食道と胃がつながる消化管領域である胃食道接合部に発生するがん腫など、複数のがんを胃がんとして分類することができます。胃食道接合部がんの罹患率は遠位胃がんよりも低いものの、増加傾向が続いています。

食道がんについて

食道がんは世界で8番目に多く、がんによる死因で6番目に多いがんで、2020年には約600,000人が新たに診断され、540,000人以上が亡くなっています。食道がんの最も一般的な組織型は扁平上皮がんと腺がんの2つで、扁平上皮がんは食道がんの約85%、腺がんは15%を占めています。しかしながら、食道がんの組織型は地域によって異なり、食道腺がんの発生率は北米（65%）と欧州（40%）と高くなっています。

ブリストルマイヤーズスクイブ：がん患者さんのためのより良い未来を目指して

ブリストルマイヤーズスクイブは、「サイエンスを通じて、患者さんの人生に違いをもたらす」というビジョンを掲げています。がん研究で私たちが目指すのは、より良い健やかな日々をもたらす医薬品を患者さんにお届けすること、そして、がんの治癒を可能にすることです。私たちはこれまでも、さまざまながん腫において生存期間を改善してきました。その実績を足掛かりに、ブリストルマイヤーズスクイブの研究者は、患者さん一人ひとりに合わせた個別化医療の新たな地平を拓くとともに、革新的なデジタルプラットフォームによって得たデータをインサイトに変え、研究の着眼点を明らかにしています。卓越した科学的知見、最先端の技術および創薬プラットフォームにより、私たちは、あらゆる角度からがん治療にアプローチします。がんは、患者さんの人生のさまざまな場面に深刻な影響を及ぼします。ブリストルマイヤーズスクイブは、診断からサバイバーシップまで、がん治療のすべての側面に違いをもたらすべく尽力しています。がん治療のリーダーである私たちは、がんと闘うすべての人々の力となり、より良い未来を築くべく取り組んでいます。

オブジーボについて

オブジーボは、身体の免疫系を利用して抗腫瘍免疫応答を再活性化するPD-1免疫チェックポイント阻害薬です。がんを攻撃するために身体の免疫系を利用するオブジーボは、複数のがん腫において重要な治療選択肢となっています。

業界をリードするオブジーボのグローバル開発プログラムは、ブリストルマイヤーズスクイブのがん免疫療法における科学的知見に基づいており、さまざまながん腫を対象に、第Ⅲ相試験を含む全段階において広範な臨床試験が実施されています。今日に至るまで、オブジーボの臨床試験プログラムには、35,000人以上の患者さんが参加しています。オブジーボの臨床試験は、治療におけるバイオマーカーの役割、特に、一連のPD-L1の発現状況においてオブジーボが患者さんにどのようなベネフィットをもたらすかについて理解を深めることに役立っています。

オブジーボは、2014年7月に承認を取得した世界初のPD-1免疫チェックポイント阻害薬となり、現在、米国、欧州、日本および中国を含む65カ国以上で承認されています。2015年10月、ブリストルマイヤーズスクイブは、オブジーボとヤーボイの併用療法において転移性悪性黒色腫の適応でがん免疫療法薬の併用療法として初めて承認を取得し、現在、米国と欧州を含む50カ国以上で承認されています。

ヤーボイについて

ヤーボイは細胞傷害性 T リンパ球抗原-4 (CTLA-4) に結合する遺伝子組み換えヒトモノクローナル抗体です。CTLA-4 は、T 細胞の活性化を抑制する調節因子です。ヤーボイは CTLA-4 と結合し、CTLA-4 とそのリガンドである CD80/CD86 との相互作用を阻害します。CTLA-4 が阻害されると、腫瘍浸潤エフェクター T 細胞の活性化と増殖など、T 細胞の活性化と増殖が促されることが明らかになっています。また、CTLA-4 のシグナル伝達が阻害されると、制御性 T 細胞の機能が低下し、抗腫瘍免疫応答を含む T 細胞の反応性が全体的に向上する可能性があります。2011 年 3 月 25 日、米国食品医薬品局 (FDA) は、切除不能または転移性悪性黒色腫患者の治療薬として、ヤーボイ 3mg/kg 単剤療法を承認しました。現在、ヤーボイは切除不能または転移性悪性黒色腫患者の治療薬として 50 カ国以上で承認されています。ヤーボイに関しては、複数のがん腫で、幅広い開発プログラムが進められています。

オブジーボおよびヤーボイの適応症および安全性情報について

米国でのオブジーボおよびヤーボイの適応症および安全性情報については、原文リリースをご参照ください。

ブリistol マイヤーズ スクイブと小野薬品工業の提携について

2011 年、ブリistol マイヤーズ スクイブは、小野薬品工業と締結した提携契約により、当時、小野薬品工業がすべての権利を保有していた北米以外の地域のうち、日本、韓国、台湾を除く世界各国におけるオブジーボの開発・商業化に関する権利を獲得しました。2014 年 7 月 23 日、ブリistol マイヤーズ スクイブと小野薬品工業は、この戦略的提携契約をさらに拡張し、日本、韓国、台湾のがん患者さん向けに複数の免疫療法薬を単剤療法および併用療法として共同開発・商業化することを合意しました。

ブリistol マイヤーズ スクイブについて

ブリistol マイヤーズ スクイブは、深刻な病気を抱える患者さんを助けるための革新的な医薬品を開発し、提供することを使命とするグローバルなバイオフーマ製薬企業です。ブリistol マイヤーズ スクイブに関する詳細については、BMS.com をご覧くださるか、[LinkedIn](#)、[Twitter](#)、[YouTube](#)、[Facebook](#) および [Instagram](#) をご覧ください。

セルジーン社およびジュノ・セラピューティクス社は、ブリistol マイヤーズ スクイブの 100% 子会社です。米国以外のいくつかの国では、現地法の規定により、セルジーン社およびジュノ・セラピューティクス社は「Celgene, a Bristol Myers Squibb company」および「Juno Therapeutics, a Bristol Myers Squibb company」と称されています。

将来予測等に関する記述の注意事項

本プレスリリースは、特に医薬品の研究、開発および商業化について、1995 年民間有価証券訴訟改正法の趣旨の範疇に含まれる「将来予測に関する記述」を含んでいます。歴史的な事実ではないすべての記述は、将来予測であるか、将来予測であると見なされるものです。そうした将来予測に関する記述は過去の実績ならびに将来の業績、目標、計画および目的に関する現在の予想および予測に基づくものであり、今後数年間で予測が困難あるいは当社の支配下にない遅延、転換または変更を来す内的または外的要因を含む内在的リスク、仮定および不確実性を伴い、将来の業績、目標、計画および目的が、本文書で記述または示唆されている内容と大きく異なる結果となる可能性があります。これらのリスク、仮定、不確実性およびその他の要因には、特に、CHMP の見解が EC に対する強制力を有しないという点、オブジーボと化学療法の併用療法が本プレスリリースに記載された追加の適応症の承認を現在想定している時期に受けられないまたは全く受けられない可能性、また承認された場合でも、そのような併用療法が本プレスリリースに記載された追加の適応症で商業的に成功するかどうかは不明であるという点が含まれています。将来予測に関するいかなる記述も保証されるものではありません。本プレスリリースの将来予測に関する記述は、ブリistol マイヤーズ スクイブの事業と市場に影響を与える多くのリスクおよび不確定要素、特にブリistol マイヤーズ スクイブの 2020 年 12 月 31 日に終了した事業年度通期報告書 (Form 10-K)、その後の四半期報告書 (Form 10-Q) および当期報告書 (Form 8-K) など、当社が証券取引委員会に提出した報告書にリスク要因として記されている不確定要素と共に評価されるべきです。本プレスリリースに記載された将来予測等に関する記述は、本プレスリリースの発表日時点での予測であり、準拠法で

特段の定めのない限り、ブリストル マイヤーズ スクイブは、新たな知見、今後の出来事等に因るか否かを問わず、一切の将来予測等に関する記述について、公に更新または修正する義務を負うものではありません。